

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2024/12/31	2025/11/28	2025/12/12	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	39,894.54	50,253.91	50,836.55	52,636.87	2025/11/4	25,661.89	2023/1/4
NYダウ	ドル	42,544.22	47,716.42	48,458.05	48,886.86	2025/12/12	31,429.82	2023/3/15
円/ドル	円	157.20	156.18	155.81	161.95	2024/7/3	127.23	2023/1/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ FRBによる追加利下げの実施などを受けて上昇~

先週の日本株市場は、日経平均が+344.68円(+0.68%)、TOPIXが+61.27ポイント(+1.82%)となり、FRB(米連邦準備理事会)による追加利下げの実施などを受けて上昇しました。業種別でみると証券・商品先物取引業、輸送用機器、卸売業などの28業種が上昇した一方、その他製品、情報・通信業、精密機器など5業種が下落しました。

8日は、先々週末の米国株市場がFRBの利下げ期待の高まりを受けて上昇したことや、為替の円安進行が好感され、国内株市場も上昇しました。9日から10日にかけては、11日未明にはFOMC(米連邦公開市場委員会)の結果公表を控えていることなどから投資家の様子見姿勢は強かったものの、米SOX(フィラデルフィア半導体株)指数が最高値を更新したことを背景に国内ハイテク株にも買いが集まったことや、為替の円安進行を受けた輸出関連銘柄の上昇などから、続伸しました。11日は、FOMCでは市場の予想通り0.25%の追加利下げが実施されたことが好感されたものの、材料の出尽くし感から利益確定とみられる売りが先行し、4日ぶりに下落しました。12日は、前日の米国株市場で主要指数が最高値を更新した流れを引き継ぎ、幅広い銘柄に買いが集まったことから反発し、TOPIXは最高値を更新しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
12月15日	Mon	日本	日銀短観 大企業製造業景況感(現状)	10-12月期	14.0
			第3次産業活動指数(前月比)	10月	+0.3%
		中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	11月	+6.1%
			小売売上高(年初来/前年比)	11月	+4.3%
12月16日	Tue	欧州	鉱工業生産(前月比)	10月	+0.2%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景況感	12月	18.7
		欧州	製造業PMI(購買担当者景況指数)	12月	49.6
			サービス業PMI	12月	53.6
		ドイツ	ZEW期待指数	12月	38.5
			小売売上高(除自動車)(前月比)	10月	+0.3%
12月17日	Wed	米国	非農業部門雇用者数変化	11月	—
			製造業PMI	12月	52.2
			サービス業PMI	12月	54.1
		日本	貿易収支	11月	▲2,261億円
12月18日	Thu	ドイツ	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	10月	+4.2%
			IFO企業景況感指数	12月	88.1
		日本	日本銀行・金融政策決定会合(19日まで)		
12月19日	Fri	欧州	ECB政策理事会		
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況感	12月	▲1.7
			CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	11月	—
	日本	全国CPI(除生鮮/前年比)	12月	+3.0%	

決算発表予定 他	海外	決算発表 :	12/17 マイクロン・テクノロジー 12/18 フェデックス 12/19 ナイキ
----------	----	--------	---

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ AI関連銘柄の過熱感や日銀の政策不透明感が重しとなり、上値の重い展開 ~

今週の日本株市場は、AI(人工知能)関連銘柄の過熱感や日銀の政策不透明感が重しとなり、上値の重い展開を予想します。先週発表された米国のAI関連銘柄の決算は、当期の売上高や利益等は良好な内容であったものの、先行き業績に対する慎重な見通しが示されたことなどから、AI関連銘柄の過熱に対する警戒感が再燃しています。しばらくは、AI関連銘柄に対する警戒感が意識されやすく、株価の重しに働くとみえます。また、今週は、日銀の金融政策決定会合が開催されますが、0.25%の追加利上げに加えて、次の利上げ時期や今回の利上げ局面における到達点などに対する不透明感が意識されており、積極的な買いは手控えられるとみえます。ただし、本日(15日)発表の日銀短観において、大企業製造業の景況感が3四半期連続で改善し4年ぶりの高水準となるなど日本企業を取り巻く環境は良好であること、高市政権の財政拡大による日本経済の改善期待は根強いことなどから、日本株市場の中期的な上昇基調に変化はなく下値も限定的とみえています。なお、16日には米国の非農業部門雇用者数変化を含む雇用統計が発表されますが、予想を大きく上回る悪化が示されればリスク回避姿勢が強まる可能性がある一方、緩やかな労働市場の軟化を示す内容となればFRBの利下げ期待を高めることで、株価にプラスに働くとみえています。その他の注目材料として、日本では17日の機械受注、19日のCPI、米国では16日の小売売上高、18日のCPI、欧州では15日の鉱工業生産、ドイツでは17日のIFO企業景況感指数、中国では15日の小売売上高などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
 加入協会 : 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。